

鳴門市明神小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 主体的に学び、表現できる児童の育成
- ② 主体的で対話的な授業づくりと実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員  教務主任	委員	低学年担当
	校長 教頭 特別支援コーディネーター (特別支援コーディネーター)	中学年担当 高学年担当

【各校の取組状況の把握について】

校内研修での授業研究や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の活動の時間や授業において、与えられた課題を解決するために、真面目に取り組むことができている。 ●段落相互の関係や問いの意図など、文章を正確に読み取る力に課題がある。	・学習の過程を通して基礎・基本の力を身につけ、習得した知識を他の学習や生活で活用することができる。 ・書かれてあることを正確に読み取ることができる。	・特に算数の授業においては、終末に適用問題を解かせることにより、本時に学習した内容の定着がはかれるようにする。 ・何が書かれているかを捉えさせるため、音読をさせたり問題提起の部分などをアンダーラインや丸で囲ませたりする。	・朝の活動ではタブレットを利用した学習を継続し、宿題においても、反復学習させることにより、基礎・基本の定着や活用する力を身につけられるようにする。	・適用問題を本時の狙いに応じて設定し、板書やノートに書いたことを見直すことで全員が解けるようになった。 ・朝の活動や家庭学習でタブレットを利用した学習を継続して行うようになった。 ・文章の大事なところにアンダーラインを引かせることにより、読み取ることができるようになった。	・特に算数の授業においては、終末に適用問題を解かせることにより、本時に学習した内容の定着がはかれるようにする。 ・基礎的・基本的内容を生かして発展問題にも取り組ませることにより、活用する力が身につけられるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを文章で表現したり、発表したりする児童が多い。 ●教師や友達の話を最後まで静かに聞くことができない児童がいる。 ●自分の考えと友達の考えを比べて聞いたり、複数の資料を比べたりして、自分の考えを広げたり深めたりすることを苦手としている。	・「話すこと・聞くこと」などの基本的な学習態度を身につけている。 ・話し合い活動を通して、自分と友達の考えを比べ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・学習や生活において、適切な言語活動により表現することができる。	・話し方の話型や聞き方を徹底することにより、場に応じた話し方・聞き方ができるようにする。 ・問題解決の過程や既習の事柄を掲示、板書することにより、学びを共有し、自分の考えを広げられるようにする。 ・「なぜ」、「どうして」など問い返しを行うことで、児童の考えを深めるようにする。	・「読むこと」の領域において単元を貫く言語活動や並行読書、相互交流を取り入れることで考えを広げたり、深めたりする機会を増やす。 ・振り返りを含め、「書く」学習を増やすようにする。	・ペア学習、グループ学習、あるいは自由に歩いて多くの友達と話し合うなど、意見を交わす場を取り入れるようになった。 ・発表では、理由(根拠)を言ったり、「なぜ」「どうして」という切り返しの発問に対して、さらに詳しく説明ができた児童が増えた。	・自分の考えや理由(根拠)の伝え合い、自分と友達の考えの比較ができるようにネームプレートの活用をする。 ・タブレットをどの単元でどのように使えば学習効果が高まるのか教材研究を行い、授業で使っていくことができるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○得意なことや興味のあることには意欲的に挑戦し、やらなければいけないことは最後までやり遂げようとする姿が見られる。 ●苦手な学習は、すぐにあきらめてしまう児童が多い。	・めあてをつかみ、主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の課題を把握し、解決できるように根気強く努力することができる。 ・自分の学習を振り返って次につなげることができる。	・児童が学習したくなるめあてを設定する。 ・児童の思考の流れを中心とした授業展開を考える。 ・学んだことを振り返る場の設定をする。	・振り返りを感想だけで終わらず、学びの実感を持ち、新たな気付きや探究課題を見つけられるようにする。	・振り返りをする中で、「わかった」「できた」を実感できるようになった。 ・自力解決の場面では、絵や式、言葉など表しやすい方法で表現できるようにすることで、自分の考えを少しでも表そうとする児童が増えた。	・自力解決の時間、考えを共有する時間、まとめ(振り返り)の時間を確保することにより、「できた」「友達に認められた」という達成感を味わわせ、学習意欲の向上を図っていく。 ・授業の終末の充実に向けて、「まとめ」「振り返り」について日々工夫を重ねながら実践していく。

令和4年度 学力向上ロードマップ

